**<教授用資料>**

**観点別特色**

教科書名：Revised POLESTAR English ExpressionⅡ（104 数研 英Ⅱ/ 324）

Ⅰ 内容

本教科書の編集にあたっては，多様な言語活動を通して，基本的な言語規則を，自然な使用場面の中で習得させることを意図した。また，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養えるように配慮した。編集上，特に留意した点は以下の通りとなる。

(1) **自然な文脈**において表現を学べるように，ターゲットとなる言語材料を**Model Dialogs（会話文）**中で示した。

(2) 授業中にコミュニケーション活動の機会が十分取れるように，PART 1, 2の各課1ページ目に**ペア・ワーク**を掲載した。3～4ページ目（Express Yourself，Active Listening，Real-World English）でも，ペア・ワークができる設問を適宜掲載した。

(3) 学習事項を活用させるために，**自己表現活動（Short Speech, Presentation）**や**リポートする活動（Research and Report）**を適宜設けた。

(4) オーセンティックな英語に触れる機会を設けるために，Part 2でReal-World Englishを扱った。

(5) 英語の論理に合った，まとまった量の自然な英語を書き，話すことができるように，PART 3ではパラグラフ・ライティング，PART 4では自由英作文，そしてPART 5ではスピーチ/プレゼンテーション/ディスカッション/ディベートを扱った。

(6) 英語による授業を円滑に進められるように，**問題指示文等はなるべく英語を使用**した。

(7) 学習内容の定着を図るために，数課ごとに**復習問題のページ（REVIEW）**を設けた。

Ⅱ．全体の構成

**A. 正課：PART 1～PART 5までの5パート構成。**

**【PART 1（Lesson 1～7の全7課）】**

**1, 2ページ目**：各課の文法事項を含んだ対話文や補充例文，解説を通して基本的な文法・語法のルールを再確認し，さまざまな形式の練習問題で定着を図る。

**3ページ目**：モデル文を参考に，各STEPの指示に従って，自己表現活動を行う。

**4ページ目**：「リスニング問題＋表現活動」，およびその課の文法事項の最終チェックを行う。

**【PART 2（Lesson 1～10の全10課）】**

**1, 2ページ目**：各課の重要表現を含んだ対話文や補充例文，解説を通してポイントを確認し，ディクテーションを含めたさまざまな形式の練習問題で定着を図る。

**3ページ目**：モデル文を参考に，各STEPの指示に従って，自己表現活動を行う。

**4ページ目**：「読解問題＋対話形式のリスニング問題」を軸とした総合的な表現活動。「読む・聞く・書く・話す」の4技能をフルに使って，その課を締めくくる。

**【PART 3（Lesson 1～7の全7課）】**

**1ページ目**：各課の重要事項を含んだモデル・パラグラフ，解説を通してポイントを理解し，さらにモデル・パラグラフについての確認問題で内容の定着を図る。

**2ページ目**：さまざまな形式の問題を通して，最終的に実際に自分でパラグラフが書けるようになるための訓練をする。

**【PART 4（Lesson 1～7の全7課）】**

このPART は主にグループ・ワークで行い，テーマに沿ったある程度まとまった量の英文を書いたり話したりできるようになることを目指す。

**【PART 5（Lesson 1～4の全4課）】**

このPART では「スピーチ」「プレゼンテーション」「ディスカッション」「ディベート」について学ぶ。それぞれの活動がどのようなものかを理解した上で，最後に実際に自分たちでそれらをやってみる，という構成になっている。

**B. 巻頭要素・補充演習・巻末要素・見返しなど**

・巻頭に「英語の基本―文の基本構造」のページを設け，「句と節」「前置修飾と後置修飾」を本課に入る前に学習できるようにした。

　・数課ごとに，それまでの課で学んだ内容を復習できるREVIEWのページを2ページずつ設けた。またREVIEWの最後には，モデル文の型を応用して，自由英作文に取り組めるFOCUS ON THE FORMのコーナーを設けた。

　・「Let’s Act Out」（全3回）では，ケネディー大統領/キング牧師/マララさんのスピーチをもとに，それらを音読し，さらにそのスピーチを参考に自分でも同様のスピーチを作成してクラスで発表することができるようにした。

　・巻末の「英語表現Ⅰ，Ⅱを通した文法のまとめ」では，「英語表現Ⅰ，Ⅱ」の教科書で扱った文法事項を，文法項目ごとに例文を挙げることで一覧としてまとめた。また，「PART 2のトピック別語いリスト」では，PART 2の各トピックに関連した，汎用性の高い語句・表現をリスト化してまとめた。

　・見返しでは「Eメールの書き方」「英語の手紙の書き方」「全体の構成のチェック」「英語表現の最終チェック」を扱った。

Ⅲ．標記・表現及び使用上の便宜

・脚注：意味の取りにくい語いの和訳やコロケーション，問題を解く上でのヒントなどを示した。

・PART 1, 2各課の対話文（Model Dialogs）では，ペア・ワーク（Pair Work）として自分のことを表現できるように，対話文中の英文を適宜斜体字とした。

・PART 1各課の補充例文（Adding Variations）には，例文を暗唱用としても使えるように，英語の例文のすぐ後にその英文の和訳を併記した。

・リスニング問題がある箇所は，ヘッドフォンのマークで示した。

・個人で行う表現活動がある箇所は1人の人形のマークで示し，2人で行う表現活動がある箇所は2人の人形のマークで示し，3人以上で行う表現活動がある箇所は3人の人型のマークで示した。

・巻末には「PART 2のトピック別語いリスト」を設け，PART 2の各課の内容を読み，解き進めていく際に参考にできるように，課ごとに重要語いをリスト化した。